MARITIME　INTERNATIONAL 2022　　第３号 令和４年１２月２２日

〈東京都立大島海洋国際高等学校　　TEL:04992-4-0385　FAX:04992-4-1764〉
メールアドレス：kaikoku@section.metro.tokyo.jp
HP アドレス：https://www.metro.ed.jp/oosimakaiyokokusai-h/

大島丸一般公開(お台場ライナー埠頭)

撮影：瀧田静子氏

令和２年２月竣工以来、コロナ禍により中止となっていた一般公開が東京において行われました。９月３日(土)・４日(日)の２日間で東京都民の方々４２８人が訪船されました。

船尾のデッキから乗船し、教室兼食堂・生徒居室・観測室・ブリッジと一筆書きのコースを通って見ていただきました。皆さん思い思いに写真を撮られていました。中でも人気だったのが船内の浴室で、必ず撮影されてました。

時期は未定ですが波浮港入港の際には大島在住の方向けに、一般公開をする予定です。

１年　乗船実習

１０月１１日から４泊５日の航海を４回に分けて実施しました。大島岡田港を出港し、館山湾で錨泊し、横浜に寄港、海洋観測・操船訓練を実施し大島岡田港で終了しました。

右の写真は浦賀水道航路を航行時に、コンパスデッキにて全員で周囲の見張りをしたり、いろいろな説明を聞いたりするオールハンの最中の様子です。海図と実際の地形やブイを見比べることで、自船の位置を推測することができます。

生徒一人ひとりが実際に大島丸の舵を握って操船したり、海洋観測で深海 1000m の海水に触れたり、ネットを曳いてプランクトンやマイクロプラスチックを観察したりなど生徒にとって多くの学びとなる航海実習となりました。

また、体力勝負の乗船実習では、食事の重要性を実感したようです。たらふく食べすぎて船酔いが悪化してしまう生徒もいましたが、普段なかなか食べることができない海鮮丼やステーキ等に舌鼓を打っていました。はじめは食事の準備・片付けすらたどたどしい様子でしたが、

日を重ねるにつれて協力し、テキパキと作業できるようになりました。
　乗船を通して、協力の大切さを学んだようです。今後の学校生活に活かしましょう！

1 年生の男子生徒の感想
「乗船実習を終えて」
　僕は甘く見ていました。というのも、乗船前は五日間なんて大丈夫だろうと思っていました。しかし、いざ乗船が始まったらもう無理だと思いました。
　一日目は、船酔いがひどくとてもつらかったです。でも船内ツアーやチョサ―講義があり、船の構造や心得などを学べました。二日目は浦賀水道航路の見学をしました。そこでは、十二ノット以下で走る、海上衝突予防法など浦賀水道航路で守らなければならないルールや法律を学べました。三日目にはだんだん船酔いもなれてきました。そして海洋観測をやり水温や水質を調査してその機械の使い方などを学べました。四日目では、いよいよ実習最後で、この実習のメインである「操舵」をやりました。前日に練習をしましたが実際にやるとなると風や波もあり思い通りにいかず、改めて船員さんをすごいと思いました。その後、CTD・ヒューストンネットの二つの調査をして海の生物や水深による変化など学べて良かったです。
　最後に、この実習を通して海のことについてたくさん知れたし、また船のことについてもたくさん学べました。つらかったけど、楽しかったです。ご飯おいしかったです。

2 年国際系 語学研修

　２学年国際系の生徒が福島県ブリティッシュヒルズにおいて、３泊４日の語学研修を行いました。今回は蔓延防止により大島から直接現地を往復する行程でした。英語による９０分の授業は初め大変でしたが、だんだんと耳が慣れ英語が理解できるようになっていったようでした。
　授業以外にも、生徒自身がスピーチ、シェークスピアの理解、スヌーカー、スコーン作りなどを通して英語に触れていき、日常生活全てで英語を使おうしていました。

参加生徒の感想

はじめ、ここにかけられた費用分を取り返すために仕方なく自分から学習しに行く心構えだった。あらかじめ配られたしおりには“本物志向”と書かれていたが、その通りだった。部屋の家具、食堂の内装、部屋一つ一つの工夫に素人ではあるが実際に圧倒されたからだ。建物の創り、そこからの景色だけでなくすべて見ごたえがあった。

もう一つ驚いたことがある。９０分の授業だけでなく買い物や食事案内など日々の生活すべてに英語が使われ、本当に英語尽くしの日々だった。引率の先生や観光客が日本語をしゃべることはあるが、現地スタッフがしゃべったところを一度しか見たことがなかった。その一度でさえ自分が買い物で質問に行く前のちょっとした空き時間のときであり、その瞬間瞬時に英語に切り替えていた。 それをまのあたりにし、当たり前として行っているその場の全員に尊敬したと同時に自分もそうでありたいと強く思った。

そして自ら英語を学びたいから学ぶ姿勢へと転じた。学ぶ姿勢が変わったことにより英語を話すことへの抵抗やためらいがなくなった。むしろ苦ではなくなり、楽しささえ芽生えた。

大きな進展は自分から現地の先生へ英語で話しかけることができたのだ。話してみるとその先生だけでなく、多くのスタッフさん方が最後までゆっくり聞いたうえで、丁寧に返事をしてくださった。自分でも頑張って話してみようという気になれた。 些細な一瞬の会話だったけれど、自分で動いたことに意味があったと感じられた。

少しでも早く英語に慣れるために、現地のスタッフさん方や先生方だけでなく、その場にいた他校生などにも英語での挨拶を欠かさなかった。友人や引率の先生との会話は脳内で英語に変換し、わからなければ先生にダッシュで聞きにいくのを繰り返すなど他にも多くの工夫を凝らした。それもこれもその場でしか得られない多くのものに触れようとした私の好奇心と努力からきたものである。一日一日を大事にしたことによって、普段の学校の授業だけではできない経験を毎日できた。自分が成長している、生きている実感がとてもうれしかった。友人とパブでバタービールを飲んでダーツで遊んだことが一番の思い出だ。たのしかったが、しばらくは英語はお腹いっぱい状態であった。

現地を出た瞬間、日本語を使っていなかったわけではないし、忘れたわけではないが安心感で胸いっぱいだったのは忘れられない。偉大なる母国語日本語万歳。

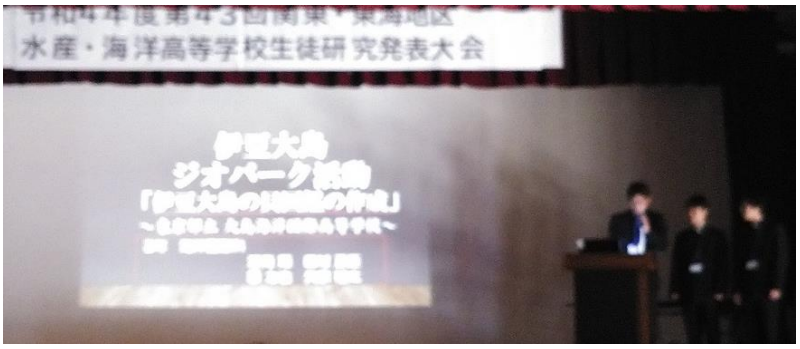
それでも英語と離れる気はなかった。毎日時間を決めて英語でタイピングをする、日記を書く。英語を担当する先生と必ず英語で会話をするな

どを一か月たった今でも続けている。今ではこの時間が自分にとって楽しいものとなっている。

この語学研修では多くのことを学んだ。先ずは、自ら進んで行動・挑戦することの大切さだ。自ら行動したおかげで英語力だけでなく、挑戦することへの抵抗が減る、自分への自信がもてるなど他にももっと多くのことを学べた。自分の可能性を自ら捨てるようにするのではなく、自ら作り出す方法を知った。 次に、多くの人とコミュニケーションをとることの楽しさだ。現地で多くの人と会話ができてうれしかった。なぜなら相手の伝えたいことがわかる。自分の思いが伝わる。というのは１７年間毎日生活するうえで当たり前に行ってきたことではあるが、異国の言葉で改めてとなるとその行為の大切さや難しさ。そして、楽しさと行えたことによる達成感が得られた。コミュニケーション及び会話は私にとって何よりも相手の感情や、考えをなどをじかに知ることができる最高の手段である。使える言語が増えるとは同時に自分の考え方の幅や範囲が広がり、より多くの知識や経験を得るチャンスが増えることだ。その楽しさが学べたのは大きな学びであると自分で感じている。

語学研修で得られた自分にとってかけがえのない経験をただの思い出にするのではなくこれからの人生に生かしていきたい。

生徒研究発表会



１１月１１日、群馬県立万場高等学校で、関東東海地区生徒研究発表会が開催されました。伊豆大島ジオパーク活動の一環として貝の博物館ぱれ・らめーると協力して伊豆大島南部に生息している貝類の同定と図鑑作成について、生物系３年生の田村正臣君、原力也君、久宗祐太君の３名が出場し発表をしました。

９月に緊急帰省が有り、活動・準備期間が短くなってしまい、全ての活動を発表することは出来ませんでしたが、短い期間を有効に使い発表を形にしてくれました。参加校１１校中７位の成績でしたが、万場高校の全校生徒、他校の参加者、教職員等１００名程の前で自身の活動を発表すると言う大任を果たしてくれたと思います。また、休憩時間中等に他校の生徒と自身や相手の活動について話していた事も印象に強く残っています。準備期間は短くなってしまいましたが、生徒にとって得難い貴重な体験になったと思います。

東京都高体連サッカー4地区選抜に選出

サッカー部１年生（前所属：成立学園中）が、３回に渡る選考会を突破し、東京都高体連４地区選抜に選出されました。今後は、１２月１１日（日）と１２月１８日（日）に都内で開催される地区選抜研修大会に参加します。

彼は部内（大島高校との合同チーム）唯一の１年生です。確かな技術は勿論のこと、努力家で日頃からよく考えながら練習に取り組んでいます。本大会でも自分の力を最大限発揮し、活躍してくれることを期待しています⚽

本校サッカー部は、帰省期間中も継続的に都内で活動し、充実した練習環境が整っています。引き続き生徒及びサッカー部の応援を宜しくお願いいたします。